

Windows認証製品「Samba 4」
 シングルサインオン製品「OpenAM」
 統合ID管理製品「Unicorn ID Manager」導入事例



株式会社 ABC Cooking Studio 様

自由度の高さとコストの安さからOSSを活用 新たなサービスの提供に向けてシングルサインオン環境を構築

新しいスタイルの料理教室を国内外で展開するとともに、オンラインサービスやヘルスケアなど、新規事業にも積極的に取り組んでいるABCクッキングスタジオ。同社は、ビジネスを推進する上で生まれるさまざまなニーズへ柔軟に対応するため、かねてよりオープンソースソフトウェア（以下、OSS）を活用してきました。そしてこのたび同社はオープンソース・ソリューション・テクノロジー（以下、OSSTech）の製品群「Samba 4」「OpenAM」「Unicorn ID Manager」を導入。今後のサービス拡充を見据えつつ、ユーザーが使いやすくセキュアな環境を実現しました。

課題

既存の業務システムはトラブルが多く
 仕様変更の要望に応えるのが難しい

解決

OSSTech製品の組み合わせにより
 自由度の高いプラットフォームを構築

自由度の高さとコストの安さを 評価しOSSの導入を決断

1985年創業のABCクッキングスタジオは、「世界中に笑顔のあふれる食卓を」という企業理念のもと、開放感あふれるガラス張りのスタジオやコミュニケーションを重視した少人数、フリー通学制など、これまでになかった料理教室を展開。こうした新しいスタイルは消費者から幅広い支持を受け、今やその数は国内125拠点、海外32拠点を数えるほどになりました。最近ではオンラインサービスやヘルスケアなど事業領域の拡大を図っており、「食の総合サービス企業」への発展を目指しています。

同社のビジネスは独自性の高いものであり、それゆえ既存のパッケージ製品やサービスをそのまま利用することが難しいという問題がありました。そこで同社は業務システムの多くをフルスクラッチで構築していたのですが、経営層などから出てくる仕様変更の要望にはなかなか応えられなかったといいます。この点についてIT事業本部 情報システム部の中村繁利氏は「業務システムは安定稼働が第一ですが、当時は中心的な存在だったエンジニアが体調を崩していたこともあり、トラブルが頻繁に発生していました。そこでメンバーの多くがトラブル対応に忙殺されてしまい、開発に十分な時間を割けなかった

のです」と語ります。

また同社では、本社でバックオフィスを担当する社員に加え、全国各地のスタジオで教室や生徒の管理を行う社員とレッスンを担当する講師、合わせて3000~3500名が業務システムを利用しています。この数字は今後、事業の拡大に伴ってますます増えていくことが予想され、Windowsサーバーへのアクセスに必要となるCAL（Client Access License）のコスト増も大きな課題となっていました。

そこで同社はこうした課題を解決すべく、2008年に基幹系システムを刷新するのに合わせ、サーバーをWindows系からLinux系に変更。ディレクトリサービスも「Windows NTドメイン」から「Samba 3」へと切り替えることにしました。「OSSなら自由度が高く、ビジネスのニーズへ柔軟に応えられるシステムを構築できると考えたのです。また、ベンダーロックインのリスクがなく、コスト的にもメリットが大きいことも魅力でした」（中村氏）

OSSTechの技術力を信頼し Samba3の導入・サポートを一任

ABCクッキングスタジオがOSSの導入を決断するに際し、大きな後押しとなったの

が、経営層のITに対する理解とOSSTechの存在でした。同社はもともとITに関して積極的な一面があったのですが、OSSの導入についても特に抵抗はなかったといいます。

「当社の経営層は、要望を迅速にかなえてくれるのならば、技術や製品の選択についてとやかく言わないところがあります。信じて一任されるだけにエンジニアとしてはプレッシャーは大きいのですが、そのぶんOSSの導入についてもすんなり通りました」（中村氏）。

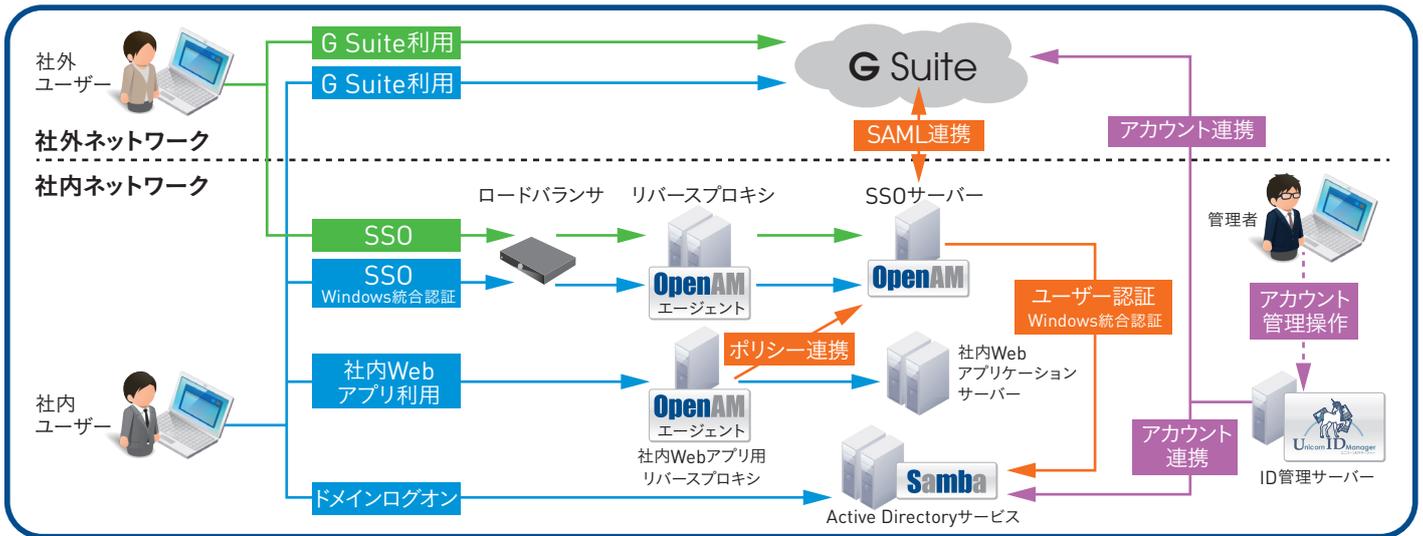
ABC Cooking Studio

会社名: 株式会社 ABC Cooking Studio
 代表取締役社長: 松谷 正輝
 創業: 1985年11月
 資本金: 1,000万円
 スタッフ数: 4,343名(2018年10月現在)
 事業内容: ABCクッキングスタジオの全国展開、調理用雑貨等の販売

お話をうかがった方



IT事業本部
 情報システム部
 中村 繁利 氏



また、トラブルの多い既存の業務システムを運用しつつ、新たにOSSへ移行するという事で、リソースの不足やメンバースキルのばらつきなどが懸念されましたが、その点はOSSTechのソリューションやサポートを活用することで乗り切れると判断しました。「私は以前に趣味でOSSをかじっていたのですが、当時から小田切さん（OSSTech代表取締役）は、コミュニティのリーダーとして活躍しており、Sambaについても雑誌などで最新情報を紹介されていました。その小田切さんが立ち上げた会社ということで、OSSTechの技術力には圧倒的な信頼感がありました」（中村氏）

こうして2008年3月、同社はOSSTechの支援のもとでWindows NTからSamba 3へ移行しました。中村氏は「当初は構築を自分たちで行い、サポートのみOSSTechに依頼することも検討したのですが、結局トータルでお任せの方がよりの確な支援を受けられると考え、すべてお願いすることにしました。おかげでスムーズに移行することができたと思います」と当時を振り返ります。

シングルサインオン環境を実現するため「OpenAM」と「Unicorn ID Manager」を導入

その後、システムは順調に稼働しており、残っていた一部のWindows系サーバーも、

順次Linux系へと置き換わっています。2016年にはクライアントにWindows 7やWindows 8.1が増えてきたこともあり、「Samba 3」のNTドメインを「Samba 4」のActive Directoryへとアップグレード。またこのころからG SuiteなどのWebアプリケーションと業務システムを連携させる機会が増えてきたため、ユーザーの利便性を高めるべくシングルサインオンの導入を検討。2017年末より「OpenAM」の運用をスタートさせました。すでに導入されていた「Samba4」のActive DirectoryとOpenAMを連携させ、WindowsにログインしていればWebブラウザでのログインを不要にするデスクトップSSOを採用。さらに、シングルサインオンの導入でユーザー管理の負担が増えることを避けるため、ユーザーのアカウントを一括管理できる「Unicorn ID Manager」も導入しました。

シングルサインオンの環境を実現した目的の第一は、ユーザーの利便性を高めつつセキュリティを担保することにはありましたが、別の狙いもありました。ひとつは新たなサービスの提供に向けた基盤づくり、もうひとつがシングルサインオン技術の習得です。

「近い将来、マイクロサービスが普及し、多彩なサービスを自由に組み合わせるアプリケーションを構築できるようになると思います。例えば、当社の会員向けポータルにロ

グインするだけで、世界中のさまざまなサービスを利用できるといった具合です。これに備えて社内に蓄積すべき技術は何かと考えたとき、やはり認証基盤だろうと判断したのです」（中村氏）

自由度の高いプラットフォームを維持していくためにも引き続き手厚い支援を期待

現在、ABCクッキングスタジオで構築している商材管理システムはシングルサインオンの機能を取り入れた最初の業務システムとなる予定で、今後は他の業務システムについてもシングルサインオン化を進めていくことになっています。

「例えばサービスの種類が増えたり、業務で利用するデバイスの種類が増えたりと、システム的环境は日々変化しています。こうした中、ビジネスにマッチした業務システムをいち早く実現するためにも、自由度の高いプラットフォームを維持していく必要があります。OSSTechには技術力の高さに加え、レスポンスの早さにも満足しておりますので、今後とも手厚い支援をお願いしたいと思います」（中村氏）

今回の導入製品

- Samba 4
- OpenAM
- Unicorn ID Manager

OpenAM、OpenDJはオープンソース・ソリューション・テクノロジー株式会社の日本での登録商標です。